

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-17909

(P2008-17909A)

(43) 公開日 平成20年1月31日(2008.1.31)

(51) Int.Cl.

A63F 5/04 (2006.01)

F 1

A63F 5/04 512C

テーマコード (参考)

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2006-190313 (P2006-190313)
 (22) 出願日 平成18年7月11日 (2006.7.11)

(71) 出願人 391010943
 株式会社藤商事
 大阪府大阪市中央区内本町一丁目1番4号
 (74) 代理人 100100273
 弁理士 谷藤 孝司
 (72) 発明者 町田 泰平
 大阪市中央区内本町一丁目1番4号 株式
 会社藤商事内

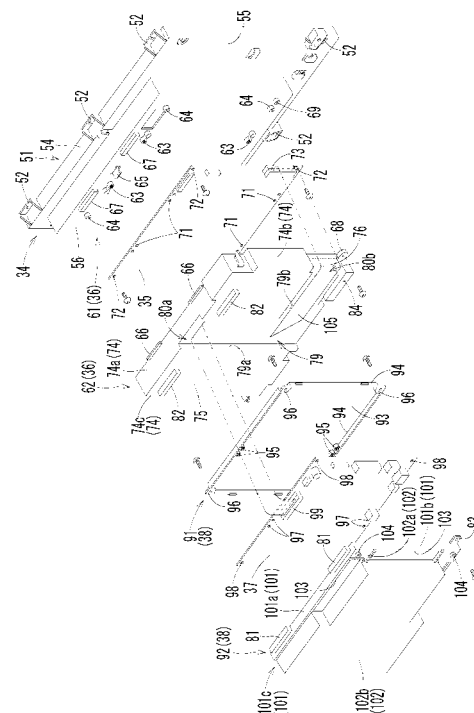
(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【要約】

【課題】 基板間を接続するケーブルを保護しつつ見映えよく配線することが可能な遊技機を提供する。

【解決手段】 第1基板ケース36と第2基板ケース38とを重ねて装着した遊技機で、第1基板ケース36と第2基板ケース38との対向部に沿って、第1基板ケース36側と第2基板ケース38側との少なくとも一方側に配線溝79を設け、配線溝79を介して第1基板ケース36と第2基板ケース38との間にケーブル105を通したものである。

【選択図】 図5



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 基板ケース（36）と第 2 基板ケース（38）とを重ねて装着した遊技機において、前記第 1 基板ケース（36）と前記第 2 基板ケース（38）との対向部に沿って、前記第 1 基板ケース（36）側と前記第 2 基板ケース（38）側との少なくとも一方側に配線溝（79）を設け、該配線溝（79）を介して前記第 1 基板ケース（36）と前記第 2 基板ケース（38）との間にケーブル（105）を通したことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記ケーブル（105）は、前記第 1 基板ケース（36）に格納される第 1 基板（35）と前記第 2 基板ケース（38）に格納される第 2 基板（37）とを接続するものであることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

10

【請求項 3】

前記配線溝（79）の両端側のケーブル引出口（80a）（80b）を、前記第 1、第 2 基板（35）（37）のコネクタ（73）（99）に対応する位置に設けたことを特徴とする請求項 2 に記載の遊技機。

【請求項 4】

前記第 1 基板ケース（36）に格納される第 1 基板（35）と前記第 2 基板ケース（38）に格納される第 2 基板（37）とは各種電子部品がその表面側にのみ装着され、前記第 1 基板ケース（36）及び前記第 2 基板ケース（38）は、それら第 1 基板（35）及び第 2 基板（37）の表面側を覆う基板受け体（61）（91）と裏面側を覆う基板カバー（62）（92）とで構成され、前記配線溝（79）は前記第 1 基板ケース（36）側の基板カバー（62）に設けられていることを特徴とする請求項 1～3 の何れかに記載の遊技機。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、複数の基板ケースを重ねて装着したスロットマシン等の遊技機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

スロットマシン、パチンコ機等の遊技機においては、機能別に構成された複数の制御基板を搭載したものが主流となっている。

30

【0003】

この種の遊技機においては、それら各制御基板は、個別に基板ケースに格納された状態で筐体内の各所に装着されているが、最近では、機種変更時の利便性、配線の効率化等の観点から、例えば互いに関連性の高い制御基板を格納する複数の基板ケースを互いに重ねた状態で装着しているものも多い（特許文献 1 参照）。

【0004】

このように複数の基板ケースを互いに重ねた状態で搭載することにより、機種変更時にはそれら複数の制御基板をケースごとまとめて交換することができ、また短いケーブルでシンプルな配線が可能である。

40

【特許文献 1】特開 2003-275440 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

上記のように複数の基板ケースを互いに重ねた状態で装着する場合には、各制御基板の対応するコネクタ同士の位置を合わせればケーブルの長さを非常に短くすることができる。

【0006】

しかしながら、種々の制約により、対応するコネクタ間の距離が大きくなる場合も多く

50

、この場合には長いケーブルを引き回さざるを得ない。この場合、基板ケースの外側にだらりと露出したケーブルが見映えを損なうだけでなく、例えば筐体を開いてメンテナンス等の作業を行う際に引っ掛けてケーブルに傷を付けたり、コネクタが外れてしまう可能性もあった。

【０００７】

本発明は、このような従来の問題点に鑑み、基板間を接続するケーブルを保護しつつ見映えよく配線することが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００８】

本発明は、第１基板ケース３６と第２基板ケース３８とを重ねて装着した遊技機において、前記第１基板ケース３６と前記第２基板ケース３８との対向部に沿って、前記第１基板ケース３６側と前記第２基板ケース３８側との少なくとも一方側に配線溝７９を設け、該配線溝７９を介して前記第１基板ケース３６と前記第２基板ケース３８との間にケーブル１０５を通したものである。

【発明の効果】

【０００９】

本発明によれば、ケーブル１０５の大部分が第１基板ケース３６と第２基板ケース３８との間に隠れて見映えがよいだけでなく、例えば前面パネルを開いてメンテナンス等の作業を行う際に引っ掛けてケーブル１０５に傷を付けたり、コネクタ等が外れてしまう不具合を極力防止できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１０】

以下、本発明の実施形態を図面に基づいて詳述する。図１～図９は、本発明をスロットマシンとして具現化した一実施形態を例示している。図１及び図２において、１は遊技機本体で、本体ケース２と、この本体ケース２の前側に配置された矩形状の前面パネル３とを備えている。

【００１１】

本体ケース２は、例えば木製で、前側が開放した箱形に形成されており、その前側を開閉自在に閉鎖するように前面パネル３が装着されている。

【００１２】

本体ケース２内には、図２に示すように、複数の図柄表示リール４ａ～４ｃを左右方向に配列した表示リールユニット５、メダル払い出し装置６、主制御基板が収容された主制御基板ケース７等が配置されている。

【００１３】

前面パネル３は、左右一端側、例えば向かって左側に配置されたヒンジを介して本体ケース２に対して開閉自在に装着されており、図１に示すように、その上部側には第１表示窓１１と第２表示窓１２とが上下に配置されている。

【００１４】

第１表示窓１１は、本体ケース２側の図柄表示リール４ａ～４ｃに対応して矩形状に形成されており、遊技者はこの第１表示窓１１を介して図柄表示リール４ａ～４ｃを前側から視認可能となっている。

【００１５】

また、第２表示窓１２は、前面パネル３の裏側に装着された液晶表示ユニット１３（図２）の表示画面１３ａに対応して例えば第１表示窓１１よりも大型の矩形状に形成されており、遊技者はこの第２表示窓１２を介して表示画面１３ａを前側から視認可能となっている。

【００１６】

前面パネル３の下端部前側には、メダル払い出し装置６から払い出されたメダルや返却されたメダルを前側に排出するための排出口１４が設けられ、その前側に、排出口１４から排出されたメダルを受けるメダル受け皿１５が横長状に配置されている。

【0017】

また、例えば第2表示窓12の下側に横長状に設けられた操作パネル部21には、遊技媒体としてのメダルを投入可能なメダル投入口22、このメダル投入口22内に詰まったメダルを返却させるための返却ボタン22aの他、メダル投入口22へのメダル投入に代えてクレジットからメダルをベットするための1ベットボタン23、マックスベットボタン24及びキャンセルボタン25、図柄表示リール4a～4cの回転を開始させるためのスタートレバー26、回転中の図柄表示リール4a～4cを夫々個別に停止させるためのストップボタン27a～27c等が設けられている。

【0018】

前面パネル3には、図4、図7等に示すように、第2表示窓12を構成する矩形状の表示装着枠31が例えば一体に設けられており、この表示装着枠31の後側に、透明板保持枠32に装着された透明板33と、液晶装着ケース34に装着された液晶表示ユニット13とが配置されている。

10

【0019】

更に、液晶表示ユニット13の後側には、図7等に示すように、液晶表示制御基板（第1基板）35を格納する液晶表示制御基板ケース（第1基板ケース）36と、演出制御基板（第2基板）37を格納する演出制御基板ケース（第2基板ケース）38とが重ねて装着されている。

【0020】

表示装着枠31には、その後部側に、内周側（第2表示窓12）から外側所定幅の範囲に前向き凹入状の透明板装着部39が設けられると共に、その外側に液晶装着ケース34をネジ止めするための固定基部40が複数設けられている。

20

【0021】

透明板33は、第2表示窓12よりも若干大きい矩形状に形成されており、図4、図6等に示すように、その外縁部に沿って透明板保持枠32を装着した状態で透明板装着部39に後側から嵌め込まれている。

【0022】

透明板保持枠32は、図4、図6～図8に示すように、透明板33の外周面に沿う周壁42と、その周壁42の後端側から透明板33の背面側に沿って延設された所定幅の後壁43とを一体に備えた断面L型に形成され、更に周壁42上には透明板33の前縁側に係脱自在に係合して透明板33を保持する係合爪44が複数設けられており、透明板33に装着した状態で透明板装着部39に嵌め込まれたとき、後壁43の背面43aが表示装着枠31の後端側と略面一となるように構成されている。

30

【0023】

なお、透明板33と透明板保持枠32とが嵌め込まれた透明板装着部39は、図7、図8に示すように、その後側に装着される液晶表示ユニット13の前面側によりその後側が閉鎖され、これによって透明板33及び透明板保持枠32は透明板装着部39内に保持される。このとき、透明板保持枠32は、その後壁43の背面43aが液晶表示ユニット13の前面側の周辺部近傍に略当接した状態となる。

【0024】

従って、透明板保持枠32と液晶表示ユニット13の表示画面13aとの間には、透明板保持枠32の後壁43の板厚分の隙間G（例えば3mm程度）が形成される。これにより、例えば透明板33に前側から衝撃が加えられたとしても、その衝撃は隙間Gによって緩和されるため、表示画面13aをその衝撃から保護することができる。

40

【0025】

なお、透明板保持枠32を、透明板装着部39側、液晶表示ユニット13側、又は液晶装着ケース34側にネジ止め等により着脱自在に固定するようにしてもよい。

【0026】

液晶表示ユニット13は、図4、図6～図9に示すように、前面側に表示画面13aが設けられた液晶本体部45と、この液晶本体部45の背面側に設けられた液晶制御部46

50

とを備えている。液晶本体部４５には、例えばその左右両縁部に汎用の固定部４７，４８が例えば夫々複数設けられている。

【００２７】

固定部４７，４８は、夫々内向きの凹入部４９と、その凹入部４９内に張り出すように前部側に設けられた薄板状の固定板５０とを備えており、この固定板５０にネジ止め用の切欠４７ａ又は孔４８ａが形成されている。

【００２８】

液晶装着ケース３４は、液晶表示ユニット１３を表示装着枠３１に固定するもので、図３～図９に示すように、液晶表示ユニット１３が前側から嵌め込まれるケース体５１と、このケース体５１を表示装着枠３１側の固定基部４０に固定するための固定部５２と、液晶表示ユニット１３をケース体５１内に保持するための保持手段５３とを例えば一体に備えている。

【００２９】

ケース体５１は、液晶表示ユニット１３の外周面に沿う周壁５４と、液晶表示ユニット１３の背面に沿う後壁５５とで前側が開放した扁平状の箱形に形成されており、液晶表示ユニット１３の表示画面１３ａ以外の部分を略覆うようになっている。

【００３０】

固定部５２は、例えばケース体５１の周壁５４から外向き突出状に設けられており、ネジ等の固定具により表示装着枠３１側の固定基部４０に着脱自在に固定されるようになっている。

【００３１】

保持手段５３は、液晶表示ユニット１３側の固定部４７に対応する係合板５３ａと、固定部４８に対応する固定基部５３ｂとで構成されている。

【００３２】

係合板５３ａは、固定部４７の固定板５０の前側に係合するように、周壁５４の前縁側から内向きに突設されている。また、固定基部５３ｂは、固定部４８の固定板５０の後側に対応するように例えば後壁５５から周壁５４に沿って前向きに突設されている。

【００３３】

液晶表示ユニット１３は、図８及び図９に示すように、その左右方向一端側の固定部４７を液晶装着ケース３４側の係合板５３ａと後壁５５との間に差し込み、更に左右方向他端側を液晶装着ケース３４内に前側から嵌め込んで、固定部４８を固定基部５３ｂに対してネジ止めすることにより、液晶装着ケース３４内に着脱自在に装着されている。

【００３４】

また、液晶装着ケース３４の後壁５５には、後ろ向きの膨出部５６が例えば一体に形成されており、液晶表示ユニット１３を装着したとき、液晶表示ユニット１３側の液晶制御部４６がこの膨出部５６内に収まるようになっている。

【００３５】

更にこの膨出部５６は、その背面側が液晶表示制御基板ケース３６の基板受け体６１を構成している。即ち、液晶装着ケース３４には、液晶表示制御基板ケース３６の基板受け体６１が一体に設けられている。

【００３６】

液晶表示制御基板ケース３６は、図５，図７等に示すように、液晶表示制御基板３５の裏面側（前面側）に対向してこれを覆う基板受け体６１と、この基板受け体６１の後側に着脱自在に装着され且つ液晶表示制御基板３５の表面側（後面側）を覆う基板カバー６２とで構成されており、これら基板受け体６１と基板カバー６２との間に液晶表示制御基板３５が格納されている。

【００３７】

基板受け体６１には、液晶表示制御基板３５を位置決めするための位置決め突起６３と、液晶表示制御基板３５をネジ止め等により固定するための固定基部６４と、液晶表示制御基板３５の縁部後側に前側から係合する係合爪６５とが後ろ向きに突設されると共に、

10

20

30

40

50

基板カバー 6 2 の一端側、例えば上端側に設けられた係合突部 6 6 が係合可能な係合受け部 6 7 と、基板カバー 6 2 の他端側、例えば下端側に設けられた固定部 6 8 を固定するための固定基部 6 9 とが設けられている。

【0038】

なお、固定基部 6 4 は、例えば液晶表示制御基板 3 5 の四隅に対応して設けられ、係合爪 6 5 は、液晶表示制御基板 3 5 の縁部に沿ってそれら固定基部 6 4 の中間部分、例えば上縁側略中央に対応して設けられている。

【0039】

液晶表示制御基板 3 5 は、液晶表示ユニット 1 3 の表示制御を行う液晶表示制御手段を構成するもので、その外縁部近傍には、基板受け体 6 1 側の位置決め突起 6 3 に対応する位置決め穴 7 1、基板受け体 6 1 側の固定基部 6 4 に対応する固定穴 7 2 等が設けられている。また、液晶表示制御基板 3 5 の表面側（後面側）には各種電子部品が装着されており、例えば左側下部には、演出制御基板 3 7 側に接続するためのコネクタ 7 3 が、液晶表示制御基板 3 5 の盤面に沿って外向き（左向き）に装着されている。

【0040】

基板カバー 6 2 は、液晶表示制御基板 3 5 の周囲を取り囲むように配置された周壁 7 4 と、この周壁 7 4 の後端側を閉鎖するように配置された後壁 7 5 とで前側が開放した略矩形箱形に形成されている。

【0041】

例えば周壁 7 4 を構成する上面板 7 4 a には、その前縁側に係合突部 6 6 が上向きに突設され、例えば周壁 7 4 を構成する左側面板 7 4 b 及び右側面板 7 4 c には、その下部前縁側に固定部 6 8 が左右外向きに突設されており、基板カバー 6 2 は、係合突部 6 6 を基板受け体 6 1 側の係合受け部 6 7 に下側から嵌合させた状態で、固定部 6 8 を基板受け体 6 1 側の固定基部 6 9 にネジ等の固定具により固定することにより基板受け体 6 1 側に着脱自在に固定されている。

【0042】

また、周壁 7 4 には、液晶表示制御基板 3 5 側のコネクタ 7 3 を側方に露出させるためのコネクタ孔 7 6 が、コネクタ 7 3 に対応して例えば左側面板 7 4 b の下部側に設けられている。

【0043】

更に、基板カバー 6 2 の後壁 7 5 には配線溝 7 9 が形成されている。配線溝 7 9 は、例えばフラットケーブルに対応して幅広に形成されており、上面板 7 4 a 側から下向きに配設された縦溝部 7 9 a と、この縦溝部 7 9 a の下端側から左側面板 7 4 b まで後壁 7 5 の下縁側に沿って配設された横溝部 7 9 b とで構成され、上面板 7 4 a に縦溝部 7 9 a の上端側に対応するケーブル引出口 8 0 a が、左側面板 7 4 b に横溝部 7 9 b の左端側に対応するケーブル引出口 8 0 b が、夫々形成されている。

【0044】

なお、配線溝 7 9 は、ケーブル引出口 8 0 a が演出制御基板 3 7 側の後述するコネクタ 9 9 の近傍に、ケーブル引出口 8 0 b が液晶表示制御基板 3 5 側のコネクタ 7 3 の近傍に、夫々位置するように配置されている。

【0045】

更に、基板カバー 6 2 の後壁 7 5 には、演出制御基板ケース 3 8 の一端側、例えば上端側に設けられた係合突部 8 1 が係合可能な係合受け部 8 2 と、演出制御基板ケース 3 8 の他端側、例えば下端側に設けられた固定部 8 3 を固定するための固定基部 8 4 とが設けられている。

【0046】

演出制御基板ケース 3 8 は、図 5、図 7 等に示すように、演出制御基板 3 7 の裏面側（前面側）を覆う基板受け体 9 1 と、この基板受け体 9 1 の後側に着脱自在に装着され且つ演出制御基板 3 7 の表面側（後面側）を覆う基板カバー 9 2 とで構成されており、これら基板受け体 9 1 と基板カバー 9 2 との間に演出制御基板 3 7 が格納されている。

【0047】

基板受け体91は、底壁93と、この底壁93の外縁側を取り囲むように後ろ向きに延設された周壁94とを一体に備えており、周壁94の後縁側が演出制御基板37の外周部近傍に前側から当接するようになっている。

【0048】

底壁93には、演出制御基板37を位置決めするための位置決め突起95が、例えば周壁94の内面側に沿って後ろ向きに突設されている。また、周壁94の後縁側には、演出制御基板37を基板カバー92と共にネジ等の固定具により固定するための固定基部96が一体に設けられている。

【0049】

演出制御基板37は、液晶表示ユニット13を含む各種演出手段の制御を行う演出制御手段を構成するもので、その周辺部には、基板受け体91側の位置決め突起95に対応する位置決め穴97、基板受け体91側の固定基部96に対応する固定穴98等が設けられている。また、演出制御基板37の表面側（後面側）には各種電子部品が装着されており、例えば上部側には、液晶表示制御基板35側に接続するためのコネクタ99が、演出制御基板37の盤面に沿って外向き（上向き）に装着されている。

【0050】

基板カバー92は、基板受け体91及び演出制御基板37の外周側を取り囲むように配置された周壁101と、この周壁101の後端側を閉鎖するように配置された後壁102とで前側が開放した略矩形箱形に形成されている。

【0051】

後壁102は、その周辺部分に、演出制御基板37の表面側（後面側）に当接して保持する基板保持部102aと、演出制御基板37に設けられた各種電子部品に対応して後側に膨出する膨出部102bとを備えている。更に、基板保持部102aには、コネクタ99等を後側に露出させるためのコネクタ孔103と、演出制御基板37側の固定穴98を介して基板受け体91側の固定基部96にネジ等の固定具により固定するための固定部104とが設けられており、基板カバー92は、演出制御基板37と共に基板受け体91に対して着脱自在に固定されている。

【0052】

また、周壁101を構成する上面板101aには、その前縁側に係合突部81が上向きに突設され、例えば周壁101を構成する左側面板101b及び右側面板101cには、その下部前縁側に固定部83が左右外向きに突設されており、演出制御基板ケース38は、係合突部81を液晶表示制御基板ケース36側の係合受け部82に下側から嵌合させた状態で、固定部83を液晶表示制御基板ケース36側の固定基部84にネジ等の固定具により固定することにより液晶表示制御基板ケース36の背面側に着脱自在に固定されている。

【0053】

なお、演出制御基板ケース38を液晶表示制御基板ケース36の背面側に装着する際には、液晶表示制御基板35側のコネクタ73と演出制御基板37側のコネクタ99とを接続するためのフラットケーブル105を配線溝79に沿わせた後、演出制御基板ケース38が液晶表示制御基板ケース36に装着される。フラットケーブル105のコネクタ73、99への接続は、演出制御基板ケース38を液晶表示制御基板ケース36に装着する前でも後でもよい。

【0054】

演出制御基板ケース38を液晶表示制御基板ケース36に装着すると、配線溝79はその後側が基板受け体91によって略閉鎖され、フラットケーブル105の大部分が液晶表示制御基板ケース36と演出制御基板ケース38との間に収容された状態となる。

【0055】

このように、本実施形態のスロットマシンでは、液晶表示制御基板ケース36と演出制御基板ケース38とを重ねて装着しており、液晶表示制御基板ケース36と演出制御基板

10

20

30

40

50

ケース 38 との対向部に沿って、液晶表示制御基板ケース 36 側に配線溝 79 を設け、この配線溝 79 を介して液晶表示制御基板ケース 36 と演出制御基板ケース 38 との間にフラットケーブル 105 を通しているため、フラットケーブル 105 の大部分が液晶表示制御基板ケース 36 と演出制御基板ケース 38 との間に隠れて見映えがよいだけでなく、例えば前面パネル 3 を開いてメンテナンス等の作業を行う際に引っ掛けてフラットケーブル 105 に傷を付けたり、コネクタ 73, 99 等が外れてしまう不具合を極力防止できる。

【0056】

また、フラットケーブル 105 は、液晶表示制御基板ケース 36 に格納される液晶表示制御基板 35 と演出制御基板ケース 38 に格納される演出制御基板 37 とを接続するものであるから、配線溝 79 内に隠れている部分の長さだけ余裕ができ、例えば両端側をコネクタに接続したままで演出制御基板ケース 38 を液晶表示制御基板ケース 36 に対して着脱することも容易である。

【0057】

しかも、配線溝 79 の両端側のケーブル引出口 80a, 80b を、液晶表示制御基板 35, 演出制御基板 37 のコネクタ 73, 99 に対応する位置に設けているため、フラットケーブル 105 の露出部分を極めて少なくすることができ、見映えがより向上し且つケーブルの保護の点でも万全である。

【0058】

以上、本発明の実施形態について詳述したが、本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々の変更が可能である。例えば、本実施形態では、配線溝 79 を第 1 基板ケース 36 側に設けた例を示したが、第 2 基板ケース 38 側の基板受け体 91 に設けてもよいし、第 1 基板ケース 36 側及び第 2 基板ケース 38 側の両方に互いに対応するように設けてもよい。

【0059】

配線溝 79 の配設形状は任意であり、実施形態のような L 字型の他、縦方向又は横方向に一直線状に配置してもよいし、斜めに配置してもよい。また、2 以上の配線溝 79 が互いに交差するように配置してもよい。

【0060】

3 つ以上の基板ケースを重ねて配置し、それらの 2 以上の対向部に夫々配線溝 79 を設けてもよい。

【0061】

配線溝 79 は、その幅及び深さをケーブル 105 側のコネクタ 73, 99 よりも大きくしてもよい。これにより、基板ケースを互いに重ねた状態のままでケーブル 105 を抜き取ることが可能である。

【0062】

なお、実施形態ではスロットマシンを例に挙げて説明したが、複数の基板ケースを搭載した遊技機であれば、パチンコ機等の弾球遊技機を始めその他の各種遊技機にも同様に適用可能であることはいうまでもない。

【図面の簡単な説明】

【0063】

【図 1】本発明の一実施形態に係るスロットマシンの全体斜視図である。

【図 2】本発明の一実施形態に係るスロットマシンの全体側面図である。

【図 3】前面パネルの裏側の要部斜視図である。

【図 4】液晶表示ユニットとその前後の装着部品の分解斜視図である。

【図 5】液晶装着ケース、液晶表示制御基板ケース及び演出制御基板ケースの分解斜視図である。

【図 6】液晶表示ユニット、液晶装着ケース、透明板及び透明板保持枠の分解斜視図である。

【図 7】前面パネルの要部側面断面図である。

【図 8】液晶表示ユニットとその前後の装着部品の平面断面図である。

【図 9】 液晶装着ケースへの液晶表示ユニットの装着状態を示す説明図である。

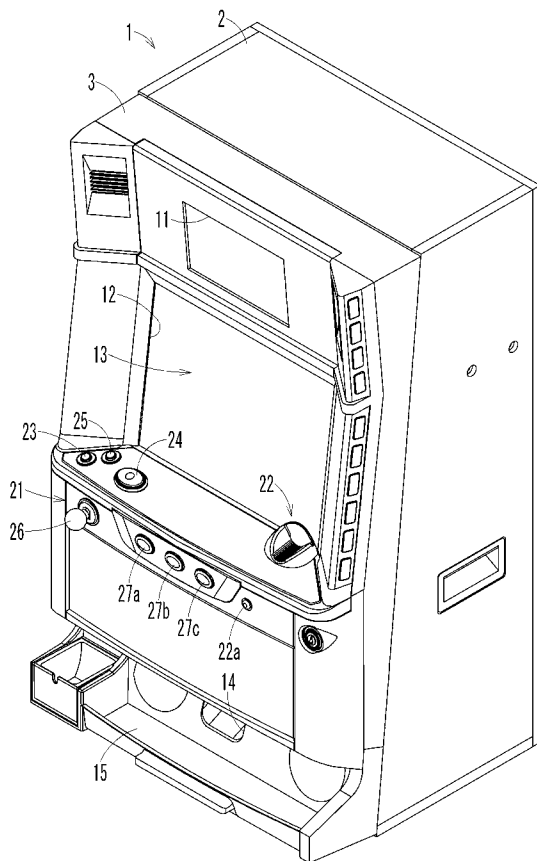
【符号の説明】

【0064】

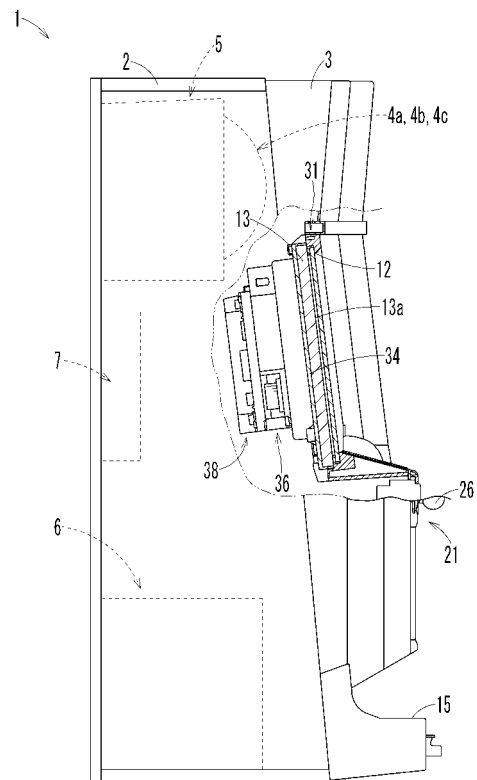
- 35 液晶表示制御基板（第1基板）
- 36 液晶表示制御基板ケース（第1基板ケース）
- 37 演出制御基板（第2基板）
- 38 演出制御基板ケース（第2基板ケース）
- 61 基板受け体
- 62 基板カバー
- 73 コネクタ
- 79 配線溝
- 80a ケーブル引出口
- 80b ケーブル引出口
- 91 基板受け体
- 92 基板カバー
- 99 コネクタ
- 105 フラットケーブル（ケーブル）

10

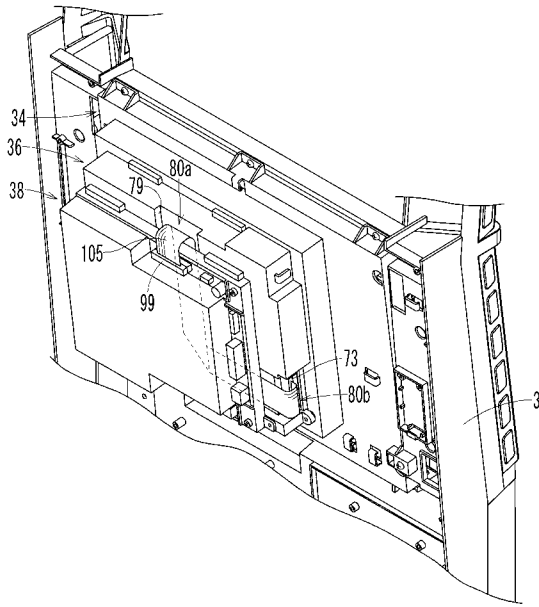
【図 1】



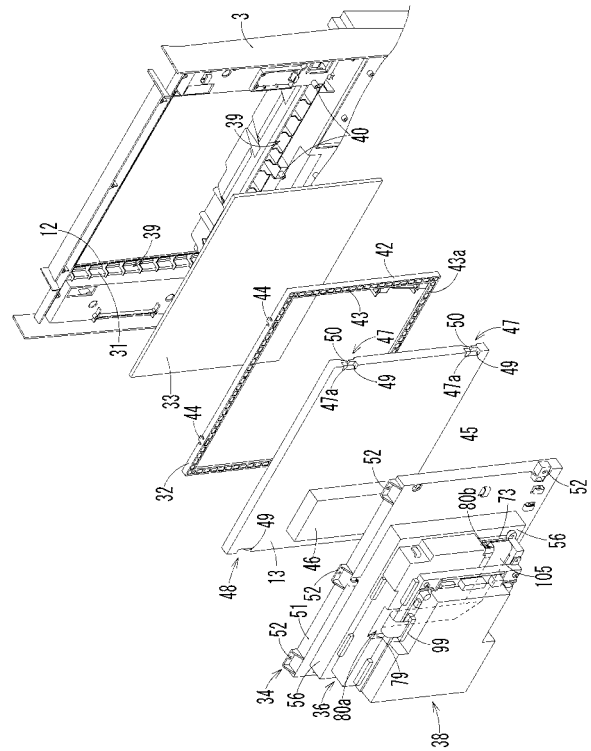
【図 2】



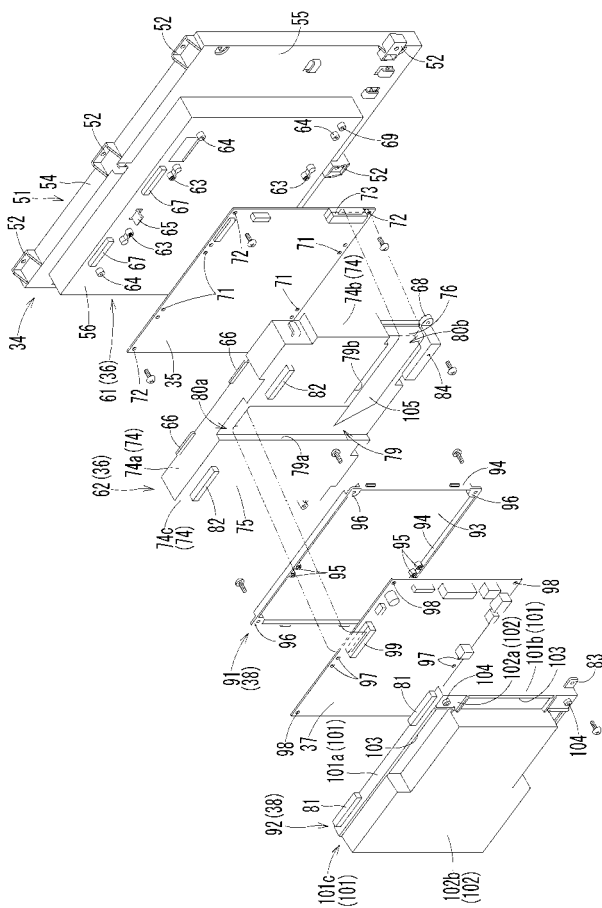
【図 3】



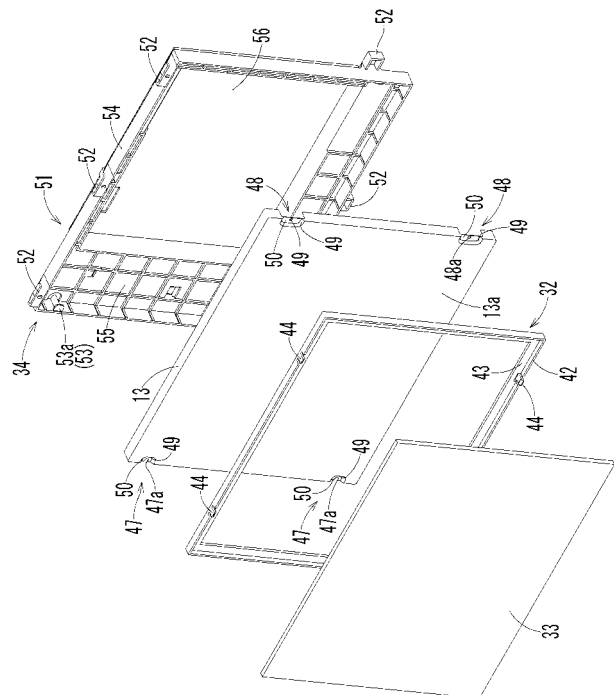
【図 4】



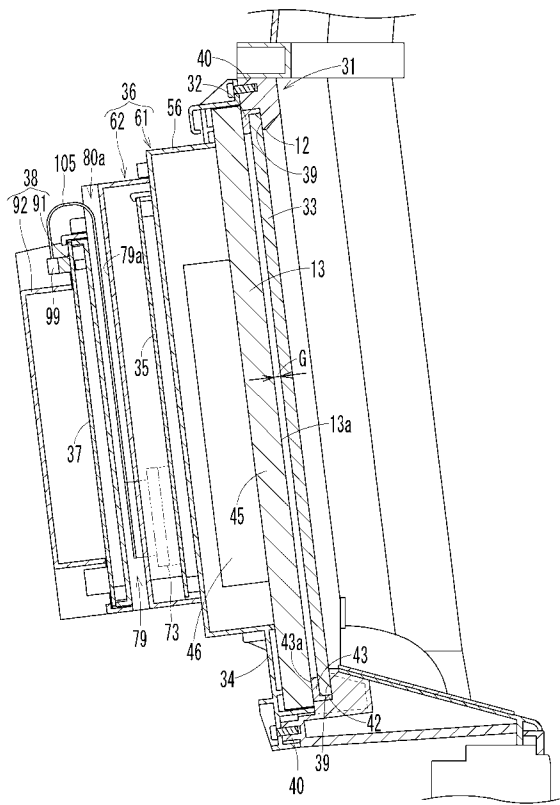
【図 5】



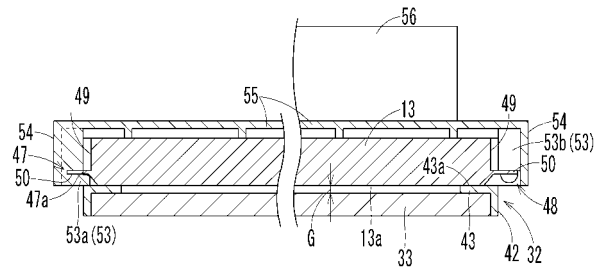
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

